

### 子どもの「かく力」の育成を目指し、職員一丸となって取り組む実践

自分の考えを表現することは、佐賀県の子どもたちの課題の一つ。今回は、「自分の考えをかく（書く、描く、打つ）」ことに焦点を当てた研究を進めている成和小学校の藤田校長先生と渡邊教諭にインタビューをしてきましたので、その内容を御報告します。

#### 成和小学校の取組の内容

##### 【「かく（書く、描く、打つ）」にこだわった取組

- ・取り組む教科や領域は自由。
- ・対話活動後に、必ず自分の考えを文章で表現する活動を仕組む。
- ・教師は、子どもの文章のよいところを見付け、評価する。
- ・宿題では毎日「日記」に取り組ませる。
- ・教師（校長も含む）は、できるだけコメントを返すようにする。



子どもも教師も自分の考えを積極的にアウトプットする成和小学校

【藤田校長先生】

【渡邊研究主任】

##### 【活気のある授業研究会】

- ・若手教員も積極的に発言する。
- ・誰もが発言をしやすい雰囲気



##### 【藤田校長の考え方】

- ・研究は先生方のもの、校長も一人の研究者
- ・トップダウンではなく、先生方の考えや意見を大切に吸い上げるボトムアップ型による意見構築を心掛ける。
- ・先生方の頑張り、子どもの頑張りを「ほめる、認める」ことを心掛ける。

#### 藤田校長先生・渡邊研究主任へインタビュー

**Q1 どうして、「かく」活動を中心にした取組をされているのですか。**

A1 本校の子どもたちの課題は「自分の考えを表現すること」という認識が職員にありました。そこで、教科領域にとらわれず、鉛筆やタブレット端末で自分の考えを表現することにこだわって取組を始めました。

**Q2 どのような成果がありましたか。**

A2 この取組を行って2年目になります。1年目は「楽しむ段階」と位置付け、取組を進めたところ、文章量が増えたり、意欲的に学習に取り組んだりできるようになりました。今年度は「分かる段階」と位置付け、自分の考えに他者のどの考えを加えて書けばよいのか、思考力向上も意識して取組を進めています。

**Q3 先生方が普段もよく授業について話し合われていると聞きました。**

A3 本校の先生方は大変熱心です。授業研究会では若手教員も積極的に発言します。発言は否定した言い方ではなく、改善策を提案するような前向きな言い方をしています。研究主任等ベテラン教員がモデルになるような発言を行っていることも影響しているかもしれません。

